

欧州モビリティ・ウィーク (EMW) の動向

Current situations of EMW (European Mobility Week)

加藤 昌樹* 高橋 勝美*

By Masaki KATO and Katsumi TAKAHASHI

1. はじめに

2006年欧州モビリティ・ウィーク (EMW: European Mobility Week) は、世界38カ国1,300以上の都市が参加して9月16日から22日までの1週間に実施された。これは自転車、公共交通等の利用を促進するための世界的な意識向上キャンペーンである。この2006年EMW (EMW 2006) の実施結果を踏まえ、次年度のEMWに向けた取り組み、課題等を討議するワークショップが2007年2月7日～8日に実施された。

本稿は、ワークショップ参加都市における持続可能なモビリティ社会の実現に向けた取り組みについて、ワークショップでの発表の概要を報告する。

2. 欧州モビリティ・ウィーク (EMW) の概要

(1) 欧州モビリティ・ウィーク (EMW) の沿革

欧州モビリティ・ウィークは、1997年に行われたフランス、ラ・ロッシュェルの「車のない日」が発端である。2000年からは、欧州委員会 (環境総局) のプロジェクトとなり、カーフリーデーという名称で実施されるようになった。2002年には、カーフリーデーを発展させ、都市と交通に関わる催しを1週間にわたって実施するモビリティ・ウィークとなった。カーフリーデーはこのモビリティ・ウィークのキャンペーンの目玉の一つとして実施されている。

カーフリーデー、モビリティ・ウィークは、車が無くとも都市活動に影響が無いことや、いつもと違う交通行動を取ることで地球環境や都市文化、都市生活の質の問題等を考えるきっかけにしようという意図で実施されている。

参加都市に求められている役割、条件は次のとおりである。

- ・持続可能な移動に向けた政策の実施、推進
- ・新しい交通政策の展開、着手
- ・現在の移動が環境や生活に与える負の効果のPR
- ・地元関係者、諸団体等との協力下における実施
- ・世界の他都市との共通の目標を共有するためのPR
- ・持続可能な移動に対する行政の責任、主導権

また、2005年からは、少なくとも1つの恒久的な新しい交通施策や交通システムの実施・導入をすることが、正式参加の条件として求められている。

(2) EMW 2006 実施概要

2006年のEMWは「CLIMATE CHANGE 気候変動」をテーマとして実施された。全世界の参加状況を見ると、モビリティ・ウィーク参加都市 (European Mobility Week) が1,321都市、カーフリーデー参加都市 (In town, without my car!) が1,311

表-1 EMW 2006 参加都市数

都市名	EMW	CFD	都市名	EMW	CFD
Albania	9	9	Latvia	9	6
Austria	35	240	Lithuania	12	21
Belgium	33	3	Luxembourg	34	12
Brazil	-	44	Macedonia	1	1
Bulgaria	61	52	Malta	1	1
Canada	3	3	Netherlands	323	18
Colombia	1	1	Norway	5	3
Croatia	3	3	Poland	29	71
Czech Republic	45	64	Portugal	34	79
Equator	1	1	Romania	67	69
Finland	15	16	Serbia	2	21
France	135	42	Slovakia	1	1
Germany	40	22	Slovenia	12	25
Greece	3	3	Spain	225	264
Hungary	25	57	Sweden	54	51
Iceland	2	-	Switzerland	9	30
Ireland	1	-	Taiwan	1	1
Italy	30	28	Thailand	1	1
Japan	3	3	United Kingdom	56	45
Total	1,321	1,311			

*EMW：欧州モビリティ・ウィーク参加 ※CFD：カーフリーデー参加

都市であった。

日本では、横浜市、名古屋市、松本市の3都市が、モビリティ・ウィークおよびカーフリーデーの支援都市として参加した。

3. EMW ワークショップ参加都市の取り組み

2007年2月に実施されたEMWワークショップの参加都市は、右表の8都市である。その中から、本稿では、コペンハーゲン市（デンマーク）、コプリブニツァ市（クロアチア）、ボローニヤ市（イタリア）における取り組み等について、概要を報告する。

(1) コペンハーゲン市（デンマーク）

「交通実験から恒久的解決策へ向けて」

a) EMW における実験の取り組み

コペンハーゲン市は、2000年から2005年のEMWに参加した。自動車、自転車、歩行者の融合、共存を図るための交通実験を5年間で73実施し、そのうち15の施策が本格実施に移行された。EMWでは、多くの市民参加を促すために、住民への情報提供に注力した。

当市は2006年のEMWには不参加であったが、これは、市民や地区住民グループの草の根レベルの活動が盛んで、2005年までの取り組みで意識向上が達成されたとの認識によるものである。

2005年のモビリティ・ウィークでは、自動車が無くても活動に支障が無いという経験を市民に体験してもらうことを意図し、コペンハーゲン都心部の1km²のエリアを対象としてカーフリー地区の指定を4回実施した。実験の結果、トラフィック・カーミング（交通静穏化）の恒久化につながり、2005年のEMWアワードを受賞した。

b) 実験の成功要因

市では、実験の目的、メッセージを明確にし、市民や関係者に周知してきた。実験はもとより、市民への情報提供や事後評価に予算をつけられたことが成功の要因だと、市では考えている。また、交通実験を交通計画のプロセスの一部として位置づけ、交通実験を通じ交通問題解決のための議論を喚起することが重要だ、との報告があった。

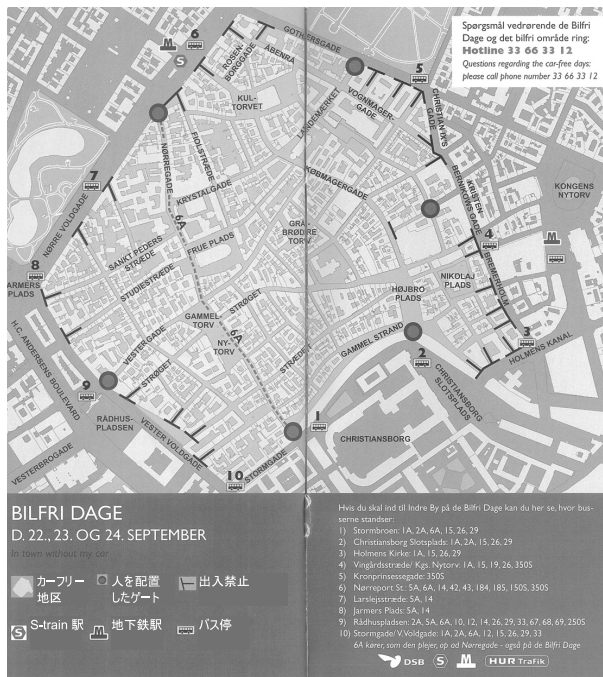
c) 今後の課題・取り組み

交通実験はこれまで市が費用を負担して実施して

表-2 EMW ワークショップ参加都市

都市名	国名	都市名	国名
● コペンハーゲン市	デンマーク	☆ レオン市	スペイン
● ブダペスト市	ハンガリー	● アルマダ市	ポルトガル
● ルビン市	ポーランド	● ボローニヤ市	イタリア
● コプリブニツァ市	クロアチア	● ナント市	フランス

※●：本稿にて報告 ※☆：EMWアワード2007を獲得



出所 コペンハーゲン市資料 (EMW 2006 ワークショップ)

図-1 EMW 2005 のカーフリー地区

きたが、今後は民間にも負担してもらって実施することが課題である。そのためには、政治家、地区住民グループの意識向上が必要だ、との報告があった。

(2) コプリブニツァ市（クロアチア）

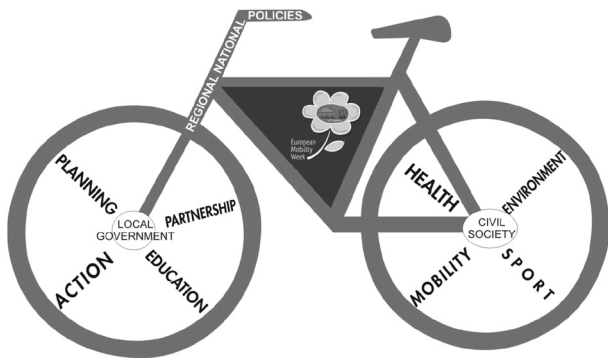
「発展を続ける街 ～戦略的計画から実行へ」

a) EMW における実験の取り組み

コプリブニツァ市では、戦後の著しい経済成長によりスプロールが発生し、一方でインフラが不足していることから、様々な交通問題が発生している。2001年から、環境省と協力し、持続可能な社会環境の実現に向けて取り組んでいる。

当市は、2002年からEMWに参加している。当地域では自転車が伝統的に愛されていることから、自転車道ネットワークの整備やシティ・バイク（無料の自転車貸し出しシステム）の実験など、自転車を中心とした戦略的な計画を立てて取り組んできた。

EMWでは、2003年は子供の巻き込みを重視し、アクセシビリティを高める実験を実施した。2004



出所 コプリブニツザ市 (EMW 2006 ワークショップ)

図-2 成功に導くためのコプリブニツザモデル

年は「子供に安全な通り」を実施、2005年には250台のシティ・バイクを実施し、EMWアワードの2等賞を受賞した。これによって中央政府の理解度が高まった。

b) 実験の成功要因

重要なプロセスは、計画の立案とパートナー選びであり、特に中央政府、地方自治体のパートナーシップが重要だ、との報告があった。

上図は、コプリブニツザ市のEMWにおける取り組みのコンセプトを示した図である。期間中には、この図をパズルにしたものを子供たちに配布するなど、PRの道具として活用された。

c) 今後の課題・取り組み

市は、予算が無いため大きな施策はできない（例えば、シティ・バイクを有料にしたいが、コストがかかるため難しい）と考えている。今後は、企業への自転車通勤の呼びかけや、自転車に関するイベントの企画などに取り組む、との報告があった。

(3) ボローニャ市 (イタリア)

「都市のモビリティ改善に向けたITシステムとグリーン・テクノロジー」

a) EMWにおける実験の取り組み

ボローニャ市では、中心部の歴史的地区にLTZ (Limited Traffic Zone) を設定し、昼間の車の流入を制限している。LTZでは、ロードプライシングを実施している。カメラでナンバープレートを読むシステムを採用し、モニタリングを実施しており、違反車両には罰金を課している。

カメラによる監視は、LTZへの主要なアクセス道路に設置されている“SIRIO”システムと、バスレーンおよびLTZの中にある特定地区への違法な



出所 ボローニャ市資料 (EMW 2006 ワークショップ)

写真-1 “RITA”システムのカメラ

進入を監視する“RITA”システムの2つのITシステムを用いている。

これらの取り組みの成果として、LTZへのアクセス車両および違法車両は減少した。住民の74%に支持されている。

b) 実験の成功要因

住民との議論が重要だ、との報告があった。

c) 今後の課題・取り組み

市では、今後、低公害車の導入、自転車利用の推奨、新しい公共交通インフラ整備、自転車道のアップグレードと整備等に取り組む、との報告があった。

4. おわりに

本稿では、欧州諸都市における持続可能なモビリティ社会の実現に向けた取り組みについて、2007年2月に開催された欧州モビリティ・ウィーク (EMW) ワークショップでの発表の概要を報告した。

各都市における成功要因や課題は、他国やわが国の都市においても共通の内容と考えられる。今後、各都市の知見を全世界的に共有化し、活かしていくことが重要と考えられる。

2007年9月には、2007年EMW (EMW 2007) が実施され、わが国からも6都市 (横浜市、名古屋市、さいたま市、那覇市、福井市、松本市) が参加した。本稿等の知見を活かし、今後さらに多数の都市において、持続可能なモビリティ社会の実現に向けた取り組みが進められることが期待される。